

b) 実際に見直してみました！

岡山市のユネスコスクール研修会に参加した先生たちが【表A】(p.6)を参考に、複数の事例をディスカッションしながら見直しました。



事例 1: 地域のお宝マップづくり

	現状	ESDの視点を加えた一例
目標設定	♥ <u>地域のお宝マップづくりを通じ、地域に親しみ、魅力を感じ、愛着を育む。</u>	• <u>お宝マップづくりを通じて、自分たちの地域と他の地域とのつながりや自分の生活とのつながりを意識する。</u>
	★ <u>考えようとするテーマは特に設定されていない。</u>	• <u>「私たちの地域のつながりと未来」をテーマに考える。</u>
	◆ <u>育もうとする力は特に設定されていない。</u>	• <u>様々な人と共に暮らせる地域社会を創るための視野を広げ、課題解決に向けた行動力やコミュニケーションの力を高める。</u>
やり方	♥ <u>先生がすべて企画し、地域のボランティアガイドさんに依頼する。</u>	• <u>子どもたち自身が企画に参加し、ボランティアガイドさんも含めて、事前に活動目標や内容について話し合う。</u>
	★ <u>子どもたちは案内に従って歩き、地域が素晴らしい場所であることを教わる。</u>	• <u>地域の持続可能性の視点から、(福祉・環境・多文化共生・防災など) 子どもたち自身が追究したいテーマを設定した上で見て歩き、感じたことを率直に表現する。</u>
	◆ <u>子ども自身に問いが生まれることは特に想定されていない。</u>	• <u>例えば「なぜこの古墳や史跡を守らなければいけないの?」といった疑問など、問いをもつ場を設定し、積極的に評価する。</u>
つながりのもち方	♥ <u>「総合的な学習の時間」に位置付けている。他教科・他学年の活動とのつながりはもたせておらず、単発的な活動である。</u>	• <u>〇〇小学校(学区)「誰もが共に暮らせる〇〇学区」など、学校全体のESDプロジェクトに位置付ける。</u> • <u>他の教科と関連させて学習する。</u> • <u>完成したマップを他教科の授業で活用する。</u>
	★ <u>学校内と地域のボランティアガイドさんのみで実施している。</u>	• <u>下の学年と一緒に活動するなど、他学年につないでいく。</u> • <u>公民館で行う同様の活動と連携する。</u>
	◆ <u>特に地域内外の学校との交流は計画されていない。</u>	• <u>同様の取組を行う他校(国内外)と、スカイプで発表し合ったり、気付いたことを伝え合ったりする。</u>

事例 2: 福祉体験

	現状	ESDの視点を加えた一例
目標設定	♥ <u>障害のある人の生活を理解し、思いやりの心をもつ</u> ようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 擬似障害体験を通じて障害に対する理解を深めると同時に、<u>障害と私たちの社会の在り方</u>とをつないで考えることができる。
	★ <u>考えようとするテーマは特に設定されていない。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <u>障害のある人もない人もみんなが共生できる社会</u>にするために<u>どうするか</u>をテーマに考える。
	◆ <u>育もうとする力は特に設定されていない。</u>	<ul style="list-style-type: none"> <u>障害のある人の立場や視点で地域社会を見つめ、多様な角度から課題を考える力</u>を育む。
やり方	♥ <u>障害者福祉施設から講師を呼ぶ</u> 。その後、アイマスクや車いす体験を体育館で行う。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に<u>連携する施設や地域の人と協議</u>をする場をもつ。その上でテーマや講師を決定する。 アイマスクや車いす体験などの体験活動を、<u>学校内外の様々な場所</u>で行う。 学校周辺や通学路を、<u>実際に見て歩く</u>。
	★ <u>「困っている人の気持ちと助ける方法を知る」</u> ことを目標に進める。	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習で<u>見ただけでは分からない様々な「障害」</u>があることを学ぶ。 子どもたち自身がそれぞれに<u>「障害」や「共に生きる社会」</u>について知りたいたいことや考えたいこと（問い）を設定する。
	◆各自で感想文を書く。 <u>「困っている人を助けよう」「思いやりをもとう」</u> 等の内容を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 体験に基づき<u>「障害とは、違いとは何か」といったテーマ</u>で考え、クラスで話し合う。 様々な方法でまとめ、<u>学校全体や地域の方との交流の場</u>などで共有する。積極的に<u>「問い」</u>をもつことを支援し、評価する。
つながりのもち方	♥ <u>総合的な学習の時間のみ</u> で学習する。	<ul style="list-style-type: none"> 社会・国語・道徳・美術など他教科と<u>関連付けて学習</u>する。 学校全体の<u>人権教育指導計画</u>に位置付ける。
	★ <u>地域の方などと一緒に学習を振り返る機会</u> は設定されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの話合いに<u>施設の人や地域の人</u>にも入ってもらい、<u>子どもの提案</u>と一緒に検討する。
	◆ <u>地域内・他地域の学校との連携や交流の計画</u> はない。	<ul style="list-style-type: none"> <u>国内外の同様のテーマ</u>で学ぶ学校を調べ、<u>情報交換</u>したり、<u>子ども同士の交流</u>を進めたりする。



色々な人と一緒に考えたり話し合ったり、できることを実践してみたりしながら学びたいなあ。



事例 3: クリーンアップ作戦 (年に1回の中学校区の清掃)



	現状	ESDの視点を加えた一例
目標設定	♥地域の環境改善に貢献することが目的。	• <u>周辺の自然環境や生態系・人体への影響, 自らの暮らしとのつながりについて考える。</u>
	★特に考えたいテーマは設定されていない。	• 「 <u>“ごみ”とは一体何か</u> 」をテーマに, 私たちの現在の暮らしや価値観を問い直す。
	◆協力する姿勢を育む。	• <u>ごみの未来について考える。</u> • <u>動植物も含めたすべての生命にとって暮らしやすい社会づくりに向け, 多様な人々と協働する力を育む。</u>
やり方	♥先生が企画し, 生徒会を中心にボランティアを募る。	• 企画の段階から子どもたちが主体で, <u>地域の人と学校とで課題を共有して進める。</u>
	★「ごみを捨ててはいけない」ことの啓発活動として行う。集めたごみは <u>全て業者に処理を任せる。</u>	• <u>参加者でごみを仕分ける。ごみの活用法を探る。</u> • <u>様々なごみがどこから来たのかなど, ごみとなる構造とその原因をみるようにする。</u>
	◆毎年同様の取組を実施しており, 「問い」をもつ場面は設定されていない。	• <u>集めたごみの量・種類などのデータを取り, 現状を知り, 経年変化を見ていく。</u> • <u>地域の人・企業などと一緒に“ごみ”とは何かについて考え, 話し合う。</u> • 「 <u>ごみのない未来の暮らし</u> 」をテーマに, 様々な視点で考えることを支援し, 評価する。
つながりのもち方	♥他教科や学年間のつながりは特になく, 単発のイベントとして行われる。	• <u>理科・算数・社会・図画工作等と関連付ける。</u> 例) 生態系や河川への影響(理科), ごみの量の計測方法・グラフや表の書き方(算数), リサイクルアート・ポスター作成(図工) etc.
	★保護者や地域の人に協力を呼びかける。	• <u>中学校区全体で取り組むプロジェクトとして, 環境に関わる活動を行なっているNPO・企業・学校などとチームをつくり, ESDプロジェクトの一つとして企画を行う。</u>
	◆地域内・他地域の学校との交流の計画はない。	• <u>国内外のごみ問題の先進地域を調査し, そこの子どもたちの活動についてインターネット等を活用して調べる。直接子どもたちがそれらの地域の人に質問したり一緒に話し合ったりする機会を設ける。</u>

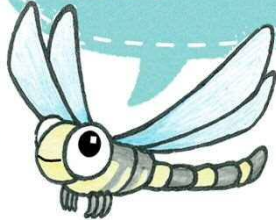
c)一つの学年や教科・領域だけで取り組めばいいの？

これで今までの活動をESDとしてさらに発展させて実践できそうだね。



クワ先生

だけど結局、担当者が頑張ってるだけの孤軍奮闘にならないでしょうか？担当者优先になってしまったり・・・



トンボ先生

ESDで身に付けたい力は、一つの学年だけ、一つの教科だけで育つようなものなのかな？



ケロ先生

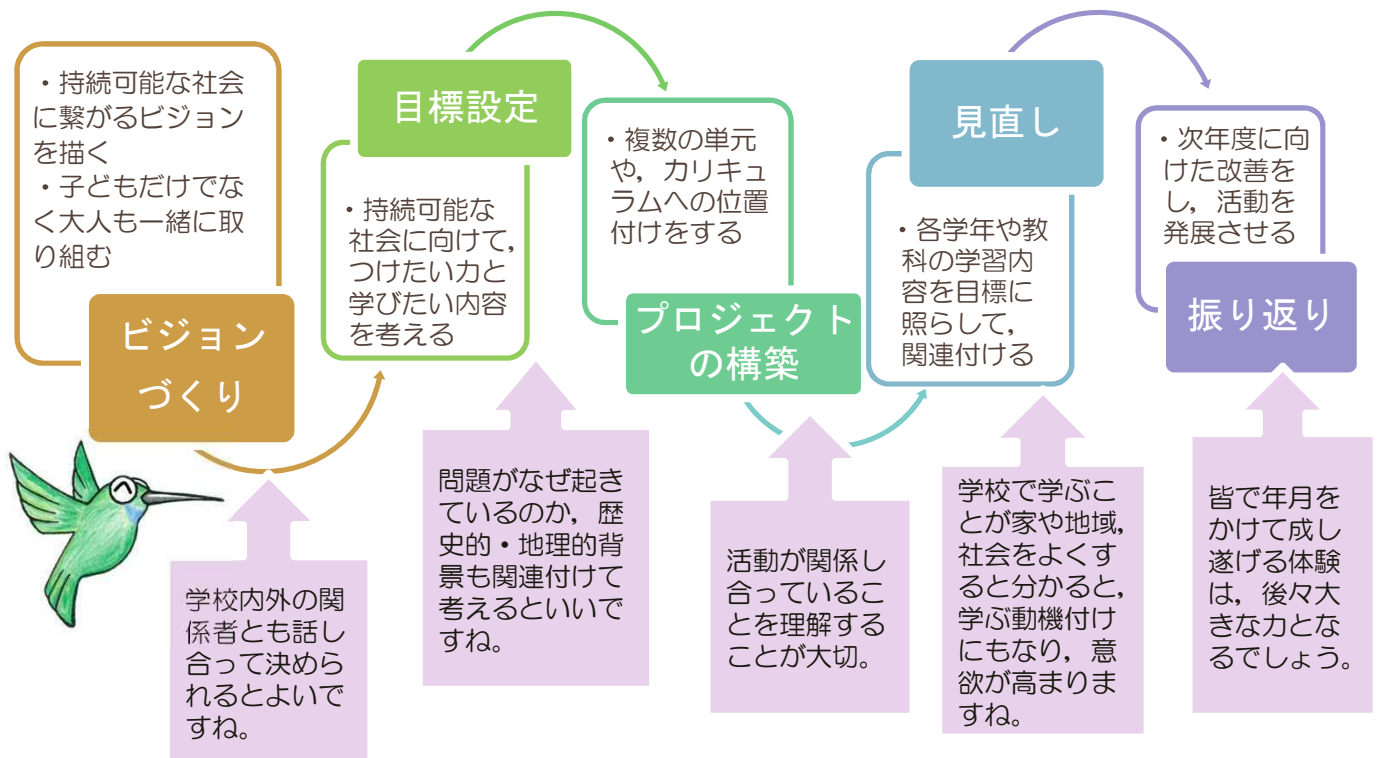


ハチドリさん

ESDで求められる力は、様々な分野と領域で関連付けるとともに、学校と地域の両方で、継続した教育によって育つものです。それはESDをプロジェクトにすることで、より効果的なものとなります。

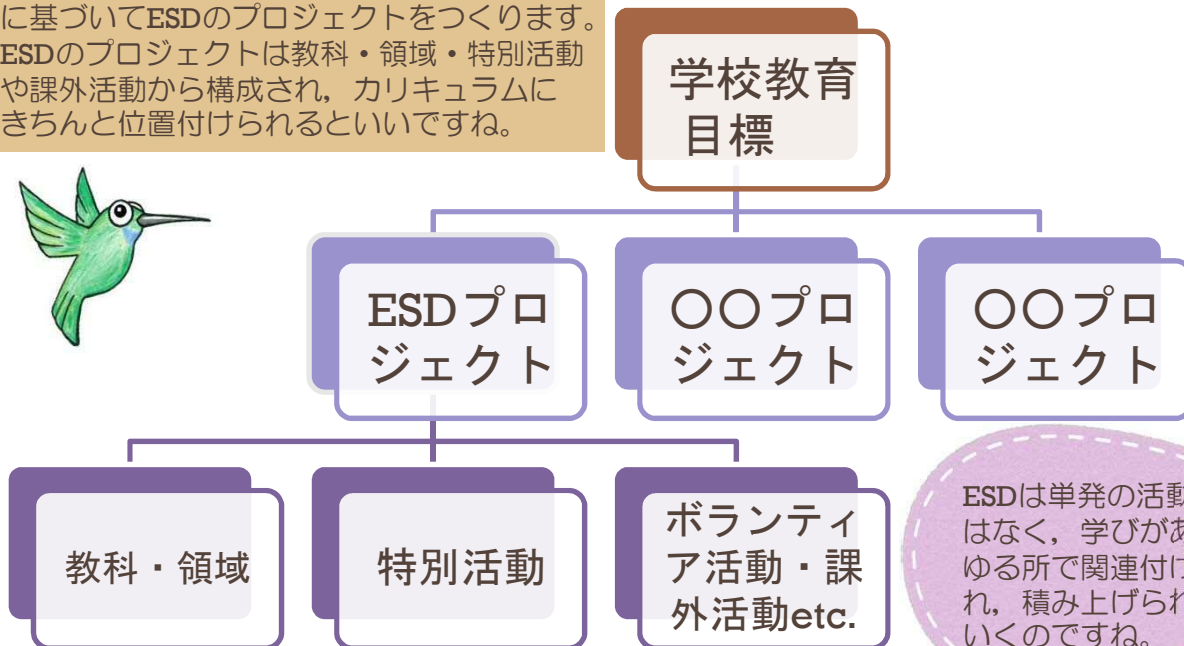
ひとつひとつの学習活動の見直しと同様、ステップを踏みながらESDのプロジェクトをつくっていきましょう。

「ESDをプロジェクトに☆五つのステップ」



d)ESDのプロジェクトづくり

ESDの視点を含む学校教育目標を考え、それに基づいてESDのプロジェクトをつくります。ESDのプロジェクトは教科・領域・特別活動や課外活動から構成され、カリキュラムにきちんと位置付けられるといいですね。



ESDは単発の活動ではなく、学びがあらゆる所で関連付けられ、積み上げられていくのですね。



S小学校の事例

① 4月 校内研修

「学校教育目標にESDの視点を入れ、ESDのプロジェクトをつくる」をテーマに講師を招いて研修（前ページと同じステップ）

② 1学期 学年会など

全教員で学校教育目標とユネスコスクール申請時に作成したプロジェクトの目標、総合的な学習の時間の目標、各学年の総合的な学習の時間の内容の見直し。

③ 夏季休業 校内研修

ESDのプロジェクト目標を決定。決定した目標に基づき、各学年の活動内容を見直す。ESDコーディネーターも同席して低・中・高学年別に実施。

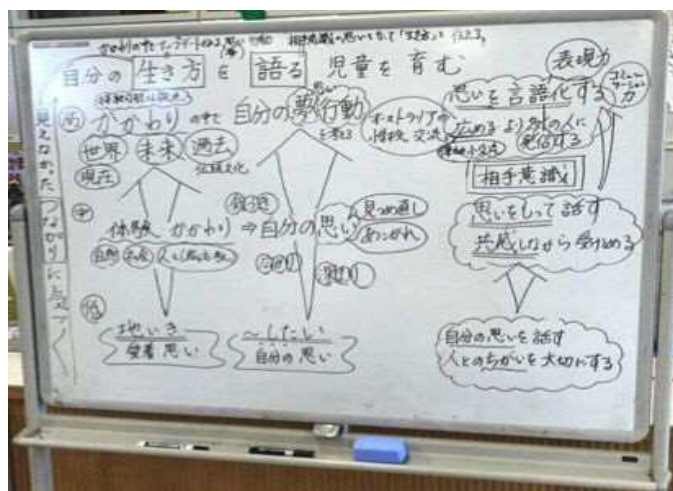
- (1)各学年の総合的な学習の時間の学習指導案を参照しながら取組を共有。
- (2)各学年の活動がどうつながるか話し合う。
- (3)地域や学校の中で、多様な活動をつなぐ素材（モチーフ）※を探す。
- (4)話し合いのプロセスを書き出していき、まとめる。

（右上写真のホワイトボード）

約2時間でESDのプロジェクト目標と全体計画が完成。

④ 学年会など

総合的な学習の時間の1年間を子どもの目線をつなぐストーリーを作成。3学期には5年生が桃太郎の創作劇を発表する予定。



※ESDの「モチーフ」：それを通して多様な課題について考えることができる「素材」「切り口」。
例えば「温羅」というモチーフで、「正義とは何か？」「なぜ歴史を伝える必要があるのか？」「桃太郎と温羅は戦わず仲よくなれるのか？」といったESDのテーマも考えられる。

3) 地域との関係はこのままでいいの？

毎年地域の方に昔遊びを教えていただき助かっているのですが、いつまで来ていただけるのか…



ケロ先生

学校ではESDに取り組んでいますが、地域の方々はあまり関心がなさそうで…



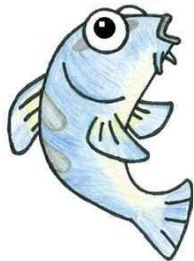
クワ先生

できるだけ地域の行事に出るようにしています。子どもの普段見られない姿が見られますし、地域の方にも喜ばれます。



トンボ先生

いつも学校に「やってください」と言われることを、やっているんですが…



コイさん

学校でどんなことが行われているのか知る機会もなく…

学校の様子をHPで発信したり、「地域の達人」を表彰したりしています。

毎日家と職場の往復で、正直、地域のことはよく分かりません。



ハチドリさん

ESDは地域と学校で一緒に進めていくものですが、やはり地域と学校とのコミュニケーションが課題のようですね。地域との関係づくりで工夫しているところもあるようですよ。

「中学校の学校菜園」

問題行動の対応に追われているある中学校で、地域の人たちが生徒と関わりをもちたいとの思いで、花壇に野菜の苗を植えました。生徒たちが興味を示すまでしばらくかかりましたが、地域の人たちが頻繁に出入りするうちに、声をかけてきたり、水やりや手入れを手伝う生徒が出てきました。10年続けるうちに収穫した野菜を校内で調理し一緒にいただく時間が設けられました。今では近くに整備予定の公園の使用の在り方に関するタウンミーティングにも生徒と地域の人たちが一緒に参加するようになりました。

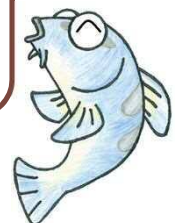
「ESD活動発表会」

ある中学校区では、小学校と中学校のESD活動の成果を毎年公民館で地域の方々（主な参加者は学校行事協力者、地域役員PTAなど）に紹介しています。

最初は発表を聞くだけでしたが、ある年から、将来この地域はどうなったらよいかを話し合うワークショップを行うようになりました。ほんの30分ですが、「そんなことは考えたこともなかった」「子どもの方が進んでいる！」「大人の方が変わらないといけな」という意見も多く出ています。

「地域活動」

ある公民館では、住民の地域への関心と関わりが、子どもの卒業とともに失われてしまうことがもったいないと、子どもの在学中から保護者が地域の人と交流できる会が開催されています。このおかげで、若い世代の地域活動への参加が増えています。



III ESDを進めていくと？

1)なにが期待できるの？

①答えのない問題に取り組むことに一体どんな意義が・・・？



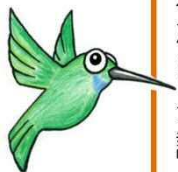
②ESDを進めていくことで、一体学校にとってどんなメリットが期待できるのでしょうか？



③ESDで子どもたちの何が育まれるのでしょうか？それは今までの教育とはどう関わるのですか？



①今の子どもたちは、近い将来、さらに不確実で複雑な課題に直面することになりそうです。グローバルかつローカルな課題の解決に向けた協働の力は、子どものうちから具体的に経験しながらこそ高めていけるものです。



②ESDの実践は教育課程や学習スタイルの変革にも貢献しうるものです。ESDを通じて教育目的が問い直されることで、教師も子どもも意欲が高まり、教育の質的な変革が起きていくことが期待できます。



持続可能な社会の実現

教育の質的な変革

生きる力・学力の質的な向上

グローバルかつローカルな課題への取組

多種・多様な人々の協働実践

探究心

動機

肯定感

有用感

③子どもたちの持続可能な社会をつくるための力・学びの意欲は、暮らしや地域の具体的な経験の中からこそ育まれるものです。多様な人々とのグローバルかつローカルな課題に対する協働実践の経験は、子どもの学びの動機・自己有用感・肯定感・探究心を高めます。それらこそが「(持続可能な社会を創造しながら)生きる力」「学(び)力」を深化させていくものです。



2)長年ESDに取り組んでいる学校と地域から・・・

■ 子どもの変容



様々な外部講師から刺激を受け、視野が広がり、課題を自分のこととして考えられる子どもが増えた。

地域との関わりや地域に対する愛着が増し、次年度の活動を楽しみにする子どもが増えた。

様々な視点で考え、学習内容をまとめたり、地域の人に向けて自分の言葉で発表したりできるようになっている。

学校外に出ることに抵抗がなくなり、地域の活動などに積極的に参加するようになり、主体的に学んだりすることができるようになっている。

■ 先生の変容



中学校区内のこ保幼小中の担当者の連携が密になってきた。そのため、段階ごとに身に付けるべき力などが話し合えるようになり、縦のつながりを意識した指導計画の作成が可能になってきた。

生徒の思いを実現するためのコーディネート力が高まった。

ESD活動を進んで発信するようになった。

自らの取組について見直し、目的を考えられるようになり、自分自身の学びも深まった。

■ 学校の変容



教育課程においてESDを各学年の総合的な学習の時間や各教科に位置付けて、実践を行うようになった。

6年間で達成したい目標とプロセスを考え、6年間を見通したカリキュラムで取り組むようになった。

ESDで目指す子どもの姿について話す機会が増えた。

■ 保護者・地域の変容



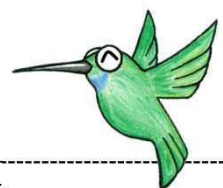
最初の頃はESDといっても分からなかったが、毎年学校と協議しているうちにだんだんねらいが分かってきた。

学校主導から、地域と学校の協働で取り組むことができるようになった。

保護者自身が知らなかったことを子どもから伝えられたことで、地域への親しみが深まり、いろいろな活動に子どもと一緒に積極的に参加するようになった。

『ESDってなんだ？ Vol.2』
平成30年2月発行

発行：岡山市教育委員会事務局指導課
編集：ESDコーディネーター 片岡雅子・小森順子・柴川弘子・原明子
協力：京山地区ESD推進協議会 運営委員 安藤鈴子
岡山市立大元公民館 木原文代
岡山市立庄内小学校 信江啓子
岡山市立高島中学校 市川厚志 山地美秀
岡山市立藤田中学校 大月陽介
ユネスコスクール推進校



ESDご相談・お問い合わせ先
岡山市教育委員会事務局指導課 ESD担当
☎ (086) 803-1591
岡山市市民協働局 ESD推進課
☎ (086) 803-1351

※無断での転載・複製・転用・編集を禁じます。